

シンポジウム発言者等のプロフィール

中林一樹氏

1947年生まれ 明治大学特任教授 工学博士 東京都防災会議地震部会専門委員(副部会長)
東京都立大学工学研究科(建築学専攻)退学後、同理学部地理学科助手、1976年の酒田大火をきっかけに
都市防災・復興研究を始める。理学部助教授を経て1993年都立大学都市研究センター教授、

【主な著書等】

『巨大地震と大東京圏』(共著、日本評論社) 『大都市社会のリストラクチャリング』(共著、日本評論社)
『変容する高齢者像』(共編著、日本評論社) 『イスラム都市の変容』(共著、古今書院)
『安全と再生の都市づくり』(共著、学芸出版社) 『大都市と直下の地震』(共編著、都市研究所)
>>詳細【執筆論文】1996年~2001年分 2002年度分 社会貢献活動等

【学会活動】

都市計画学会理事、

森反章夫氏

1952年鳥取県生まれ 東京大学大学院社会学研究科満期退学 現在 東京経済大学現代法学部教授:東京
経済大学災害復興研究所所長:特定非営利活動法人り・らいふ研究会理事

【主な著書等】

『越境する都市とガバナンス』(共著)法政大学出版会 『都市化する力』(共著)三交社
『現代社会と協働のまちづくり』(まちづくりの百科事典)丸善
『提言 仮設市街地』(共著)学芸出版社

密集市街地のまちづくりは、これまで、ともすればハードに関する技術論及び経済状況に関するものに終始してきた。しかし、まちには現に生きている人々がいる。その人たちの生活と心情に即したまちづくりの実践には、技術論と経済論のみでは絶対的に不足である。もっと広範な英知の結集が不可欠であるが、その方途があるのか。

森下尚治氏

1947年生まれ 東京大学工学部都市工学科卒 現在三菱地所株式会社 顧問
1972東京都庁、再開発事業を担当。1978墨田区役所、計画段階からの住民参加方式で京島地区の住環境整備事業に取り組む。1986新宿区役所、百人町で木造密集地域からの建研跡地への集団移転、避難場所整備に取り組む。2002東京都都市計画局都市づくり政策部長、東京の都市再生の諸計画に携わる。
2007世田谷区副区長、密集市街地の道路整備の難しさを感じつつ、まちづくりに携わる。

佐藤伸朗氏

1959年北海道生まれ 東京大学工学部都市工学科卒 東京都都市整備局防災都市づくり担当部長、技術士(都市及び地方計画)
葛飾区立石・四つ木 鉄道立体担当課長、東京都都市整備局区画整理課長、首都高速道路株計画・環境部担当部長、東京都都市整備局企画担当部長などを経て現職
東京都では首都直下型地震の切迫性を踏まえ、「木密地域不燃化10年プロジェクト」に取り組んでいます。木密地域の防災性を高めるための方策について、ぜひ、皆様のご助言をお願いいたします。

藤賀雅人氏

1985年広島県生まれ 目白大学社会学部専任講師 学術博士
明治大学理工学研究科(新領域創造専攻)修了、明治大学理工学部建築学科助手を経て現職
特定非営利活動法人向島学会理事、事務局長ほか
専門は建築・都市計画、都市計画史、防災まちづくり
防災まちづくりはハードとソフトのバランスが重要です。東日本大震災以降、このバランスはどう変わり、また、変わっていないのか。そして、生活レベルに根付く防災のまちづくりの実態と課題はどういったものなのか。みなさんと議論できればと思います。